

平成29年度 大阪府立高津高等学校 第3回学校協議会

○日 時：平成30年3月22日（木）

○場 所：大阪府立高津高校 校長室

○出席者（敬称略、委員は50音順）

委 員 木山 千鶴（本校同窓会副会長）
竹村 伍郎（地域情報誌「うえまち」編集局長）
東郷 俊也（本校PTA会長）
中川 哲也（高風クラブ副理事長）
森田 英嗣（大阪教育大学大学院教授）

事務局 村田 徹（校長）、藤原 隆志（教頭）、石田 暁（事務長）、
伊勢田佳典（首席） 山口 優（首席）、望月 俊紀（進路指導主事）
菅 康之（企画広報部長）、宮本 克比古（企画広報部・記録係）

1. 学校長挨拶

2. 学校からの説明

① 大学合格状況について *国公立大学については前期分

- ・センターテストの平均点は、全体としてほぼ昨年度と同じ。若干、下位層（6割以下）が減少傾向を示している。
- ・文系、理系を比較すると、全国平均では理系が高いが、本校では文系のほうが高い。これは近年、ほぼ同じ傾向である。
- ・京大・阪大・神大への出願状況は、昨年度より若干減り、私立が増えている。ただし、私立の合格者数が伸びているわけではない。私立が補助金の関係で合格者数を絞っている影響と考えられる。
- ・今年の特徴としては、これまであまりなかった国公立歯学部の合格者が3名出ていることがあげられる。

② 平成29年度学校教育自己診断結果について

- ・生徒、保護者、教職員とも昨年度と比べて肯定的意見の割合が増えている。
- ・記述回答は昨年より100以上増えており、否定的意見については、生徒と保護者の意見はほぼ一致している。多かったのは次の3つ。
 - ”暖房が十分でない”
 - ”トイレが汚くて臭い”

”エレベーター等のバリアフリー化が進んでいない”

③ 平成 29 年度学校評価(案)、平成 30 年度学校経営計画(案)について

- ・平成 29 年度学校評価については、遅刻者数の減少を掲げた目標が未達になっているのが残念であるが、おかげさまで、その他は概ね良好な結果となり、素直に喜んでいる。
- ・平成 30 年度学校経営計画(案)は、今年度をほぼ踏襲した内容になっているが、社会全体の流れや、2020 年度からの大学入試改革を踏まえ、次の 2 点について改めている。

(1)「英語運用能力の向上」について

これまでの到達目標を TOEFL 中心から、GTEC へと変更(2020 年度からの外部試験活用対応)。これに伴い、生徒の過剰な負担軽減等を図るため、どうしても英検受験者は減少せざるを得ないとの判断から、数値目標を%表示に切り替えている。

(2)社会全体の働き方改革の流れを踏まえ、校内安全衛生委員会のさらなる充実を追加。

3. 質疑応答・討議等

遅刻指導について

- ・遅刻減少が目標となっていることに違和感も覚える。学校より家庭の問題ではないか。遅刻の実態、遅刻指導の目的は何か。

⇒年間遅刻数は 2,000 件を超えてしまっているが、約 6 割の生徒は遅刻数「0」である。

5 回以上の遅刻をした生徒に対して「おはよう登校」という、始業までに職員室前に来る指導を行っているが、「おはよう登校」指導に該当する生徒は数%で、それらの生徒が何回も遅刻を重ねてしまっているのが実態である。

⇒かつては、笑い話的に「進学率の高い学校ほど遅刻が多い」と言われるなど、遅刻はあくまで単なる遅刻ということだったが、今は、生活習慣の一つの大切な指標になっている。生活習慣を改善することは、生徒一人ひとりの希望進路の実現にも大きく影響している。

⇒遅刻指導の導入によって、8,000 以上あった遅刻数が 4,000 そして、2000 へと減ってきている。すべての生徒が自らの希望進路を実現できるよう、いただいたご意見も踏まえて、より効果的な遅刻指導をめざしていきたい。

進学について

- ・グローバル化がますます進展する中で、残念ながら日本の大学の国際的なランキングは決して高くないとも言われている。卒業時点で、直接海外の大学に進学する例はあるか。
- ⇒主に私学や、国際学科のある公立高校では、卒業時に直接海外の大学への入学をめざす生徒も少しずつ増加傾向にあるようだが、本校や GLHS10 校については、まずは、国内の大学（とくに京阪神）への進学を考えている生徒がほとんどである。
- ⇒ご指摘のとおり、ますますグローバル化の進展が予想されることから、本校としても、今後、そのような生徒の希望に柔軟に対応できる体制・ノウハウを蓄積していくこと

が求められるものと予測しており、その時になって、慌てることのないよう、しっかりと世の中の動きを見定めていく。

学校教育自己診断結果について

- ・トイレ、バリアフリーの改善要望が多いが、どう対応しているか。
⇒トイレについては、来年、1系統改修予定である。業者による清掃を週1回は行っており、生徒の厚生委員もポスター等でトイレの美化を呼びかけているが、構造的な問題があるのか臭いが残るのが現状である。バリアフリー化については、今年度、車椅子のスロープ等の設置を行った。
- ・保護者の「家庭連絡」の項目で肯定・否定の意見が、かなり分れているのはなぜか。
⇒学校から発信している情報がうまくタイムリーに届いたか、届かないことがあったかが、肯定・否定のご意見の分かれ目になっているのではないかと捉えている。スマートフォン等が普及し、どんどん高性能になるにつれて設定等も複雑化する中で、調べてみると、仕方のないことだが、保護者の端末の設定に原因があるケースも多いようだ。現在は、情報分野の専門知識を備えた教員が一斉メールの管理まで担っているが、対応の負担も重いので、来年度から汎用性のあるシステムに外部委託する予定である。
- ・生徒の職場訪問は、素晴らしい取り組みだと思う。については、OBや外部の方にもさらにご協力していただいて、もっと知らない世界、「こんな世界があるのかと」という発見ができるような“オンリーワン”の中小企業を選定するのもよいだろう。

次年度の予定

- 第1回 平成30年 7月
- 第2回 平成30年12月
- 第3回 平成31年 3月